



安中市8月定例記者発表資料

「救急の日」記念事業について

安中市では、安中市医師会、安中消防署との共催により、厚生労働省が定めた「救急の日」にちなんだ事業として、毎年9月、記念講演会及び心肺蘇生講習会を実施しています。

今年度は、9月22日（金）午後2時から、松井田文化会館で行います。

第1部の記念講演会は、東日本大震災の「釜石の奇跡」で注目をあびた、都市防災に詳しい東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝先生を講師にお招きし、近年多発する大規模災害に学ぶ防災のあり方についてご講演を賜ります。

また、第2部では安中消防署郷原分署の救急隊員による、心肺蘇生法の実演やAEDの取扱い講習会を開催いたします。

「救急の日」について

厚生労働省は、救急医療関係者の意識を高めるとともに、救急医療や救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めることを目的として、昭和57年（1982年）に「99（きゅうきゅう）」の語呂合わせから9月9日を「救急の日」と決めました。そして「救急の日」を含む1週間を「救急医療週間」として、消防庁や関係省庁等と協力し、救急医療に関する普及啓発を図るため、救急活動の実演や心肺蘇生法の実演及び一般参加体験等を行っています。

「釜石の奇跡」について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、地震が引き起こした津波により多くの方が亡くなり、行方不明になりました。

その最中、当時群馬大学工学部の教授だった片田先生の指導のもと、8年間防災教育に取り組んでいた釜石市では、小中学生が、日頃の防災訓練を生かし、自らの判断で率先して避難行動に移りました。また、津波から逃げながらも「助ける人」となり、小学生の手を引く中学生や、高齢者や園児らの避難を手助けする小中学生もいました。

結果、小中学生約3千人のほぼ全員が津波から避難し、99.8%の生存率であったことが「釜石の奇跡」として報道されました。

問い合わせ先

- ・保健福祉部 健康づくり課
- ・担 当：小野
- ・電 話：027-382-1111
- 内 線：1171